

調査研究課題名 「先端科学技術研究をメディア芸術へと文化的価値を高めるための
施政の在り方」

代表者名 「河口 洋一郎」

中核機関名 「財団法人 画像情報教育振興協会」

調査研究の目標・概要

1. 目的

先端的科学技術を用いるメディア芸術分野において、現在日本は世界において先導的位置をしめるが、今後持続的成長を行っていくためには包括的かつ継続的な支援が必要である。本調査では、現状の把握を行い、各国における政策的支援のありかたを分析することで、日本において政府の取るべき施策のあり方を提案する。

2. 内容

最初に、メディア芸術の製作者、基盤・周辺技術を開発する研究者・エンジニアの意見を幅広く聴取する。得られた結果から、現在日本におけるメディア芸術振興の課題を得、同時に重点的に推進すべき技術領域を選び出す。

また、メディア芸術に対する海外における振興の事例を文献調査・ヒアリング等によって収集し、それらの成功のポイントと問題点を明らかにする。

本調査ではメディア芸術関係者をほぼ網羅する形での組織を母体とする推進組織を構成しており、このような形で包括的に調査研究を行う例は過去にない。

3. 俯瞰的・融合的視点

メディア芸術そのものが多分野の技術の集成となる芸術領域であることから、その分析を行うためには、固有の学問領域、視点にとらわれてしまっては有益な結論を得ることができない。本調査研究においては、実際に製作に携わる芸術家、技術の開発を行う研究者・技術者からの意見を広く受け入れることで、その全貌を明らかにする。

4. 一般からの意見の反映方法

本調査研究においては、メディア芸術を成立させるための各要素（インタフェース工学、可視化技術、芸術、アートマネジメント）の専門家を推進委員に迎え、相互に意見を交換しつつ調査を推進することで、特定学問領域に縛られない、偏りのない意見を総合することが可能になる体制をとっている。また、メディア芸術の周辺領域に位置する、メディア産業、青少年・生涯教育の観点からも意見を得ることにより、本対象が潜在的に持つ多様な効果を効率的に引き出す仕組みを考えることができる。推進委員には、マスコミ関係者が含まれており、非専門家からの意見も吸収する。

調査研究により期待される提言

- (1) 関連する技術分野の中で重点的に整備すべき分野の明確化
- (2) メディア芸術のための技術開発に対し、先端科学技術分野の研究者を参画させるための方策
- (3) 次世代を担う若手芸術家の育成のための方策
- (4) 政府として当該分野の振興・奨励のためにとるべき手法
- (5) 当該分野の文化的地位の確立のための方策（展示・アーカイブ化）
- (6) 新規産業創出のための産業界との連携のあり方に関する提案

調査研究課題名 「メディア芸術施政の在り方」
 代表者名 「河口 洋一郎」
 中核機関名 「財団法人 画像情報教育振興協会」

メディア芸術施政の在り方

平成 一五 年度	<p>各サブテーマごとの調査 ・担当機関：（財）画像情報教育振興協会（事務担当）</p>
	<p>推進委員会・研究会開催等（ヒアリングに必要な経費を含む） ・担当機関：（財）画像情報教育振興協会（事務担当）</p>
	<p>我が国において取り組むべき方策についての分析 - 1 ・担当機関 （財）画像情報教育振興協会（事務担当）</p>
平成 一六 年度	<p>我が国において取り組むべき方策についての分析 - 2 文化・経済的理由により重点的に取り組むべき領域の確定 他領域への波及を考慮した支援と官民分担のあり方 ・担当機関 （財）画像情報教育振興協会（事務担当）</p>
	<p>調査研究報告書等印刷（関連書籍の出版に要する経費を含む） ・担当機関：（財）画像情報教育振興協会</p>
	<p>コンファレンス開催（海外からの関連有識者の招請費を含む） ・担当機関：（財）画像情報教育振興協会</p>

期待される提言

- (1) 関連する技術分野の中で重点的に整備すべき分野の明確化
- (2) 先端科学技術をメディア芸術に適用するために、多様な研究者を参画させるための方策
- (3) 次世代を担う若手芸術家の育成のための方策
- (4) 政府として当該分野の振興・奨励のためにとるべき手法
- (5) 当該分野の文化的地位の確立のための方策（展示・アーカイブ化）
- (6) 新規産業創出のための産業界との連携のあり方に関する提案

先端科学技術研究をメディア芸術へと文化的価値を高めるための施政の在り方

代表者：河川洋一郎(東京大学教授)

中核機関:CG-ARTS協会(財団法人 画像情報教育振興協会)

ヨーロッパ / アメリカ / アジア

